

目 次

1. 挨拶……………本間 慎 (1)
2. フェリス女学院大学 第6回日本文学国際会議プログラム…………… (4)
3. 個別報告(16日)
 - (1) 『源氏物語』における〈涙〉表現 ——「音泣く」に秘められた力学——
……………鈴木 貴子(フェリス女学院大学大学院生) (6)
 - (2) 礼楽思想と和歌論、勅撰思想
——『古今和歌集』両序にみる「教誡之端」と「耳目之翫」を中心に——
……………尤 海燕(青島大学専任講師) (19)
 - (3) 外国としての王朝物語 ～狭衣物語から狭衣の草子へ～
……………チャロ・デエチェベリー(ウィスコンシン大学准教授) (38)
4. 基調講演
「もののあはれ」の表現とその翻訳 ——「源氏物語千年紀」を前にして——
……………芳賀 徹(東京大学名誉教授、京都造形芸術大学名誉学長) (53)
5. レクチャー・コンサート
平安時代の箏(そうのこと) ——失われた伝承をめぐって——
……………スティーヴン・G・ネルソン(法政大学教授) (81)
6. 個別報告(17日)
 - (4) 有島武郎『クラハの出家』
……………馮 海鷹(清華大学専任講師) (122)
 - (5) 韓国における日本文学研究の可能性を求める
——瀬戸内寂聴訳『源氏物語』韓国語訳から——
……………李 愛淑(韓国放送大学教授) (137)
 - (6) 遊興の花の理想 ——妓生と遊女——
……………金 榮哲(漢陽大学教授) (149)

(7) ハーバード燕京図書館の彫物雛形絵本 ——在外絵本の実相——

…………… 鈴木 淳 (国文学研究資料館教授) (159)

7. シンポジウム (17日)

日本文学はどこに行くのか ——日本文学研究の可能性—— …………… (172)

鈴木 貴子 尤 海燕 チャロ・デエチェベリ

スティーヴン・G・ネルソン 馮 海鷹 李 愛淑

金 榮哲 鈴木 淳

司会 三田村 雅子 藤江 峰夫

8. 発表者・講演者紹介…………… (197)

9. 編集後記…………… (200)

日本文学はどこに行くのか —日本文学研究の可能性—

—フェリス女学院大学日本文学国際会議—

発行：2008年3月31日 初版1刷

編集：フェリス女学院大学

発行所・：〒245-8650 神奈川県横浜市泉区緑園 4-5-3

発行者 TEL 045(812)8211(代) FAX 045(812)8822
フェリス女学院大学 本間 慎

印刷・製本：フェリス女学院大学ドキュメントセンター
